

# EU Indicators

## 欧州経済指標コメント：5月ドイツ I f o 企業景況感

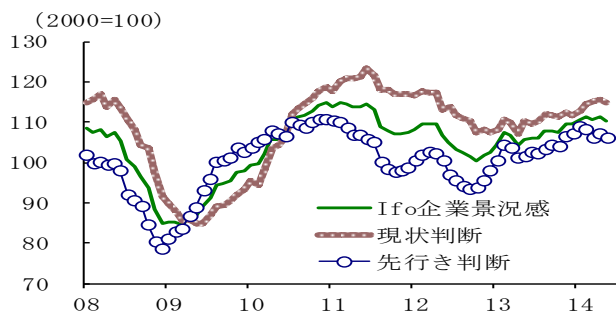
発表日：2014年5月23日(金)

～少し不安もあるけれど～

第一生命経済研究所 経済調査部  
 首席エコノミスト 田中 理  
 03-5221-4527

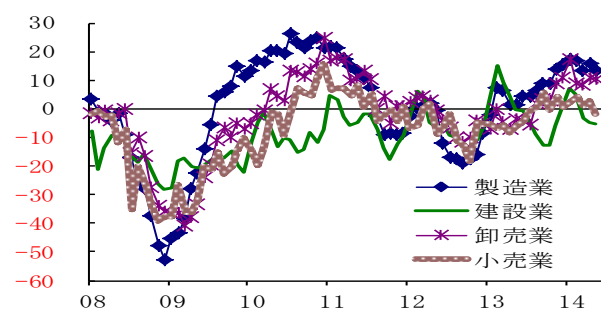
- 5月のドイツの I f o 企業景況感指数は前月から低下。これは今年に入ってから最も低い水準だが、それでも過去平均を大きく上回っている。今のところ明確な悪化トレンドに転じた訳ではないが、2月に今次サイクルのピークを記録した後は、改善が足踏み状態。内訳は、現状判断（5ヶ月振り）と先行き判断（2ヶ月振り）が揃って低下。先行き判断のピークアウト傾向が鮮明となっている。
- 業種別の先行きの業況判断は、建設業のマイナス幅が拡大し、小売業が7ヶ月振りにマイナスに転じたほか、製造業と卸売業もプラス幅が縮小し、直近ピークを記録した2月頃から水準を切り下げた。同時に発表されたサービス業の業況判断は、現状判断が悪化の一方、先行き判断がやや改善。こうした姿は、製造業の業況改善が一服、サービス業の業況改善が加速したPMIの姿と概ね一致する。
- 暖冬で嵩上げされていた建設業の押し上げが剥落、中国景気やウクライナ情勢の先行き不透明感やユーロ高基調が製造業の業況改善の重石となる一方、内需部門は雇用・所得環境の改善に支えられ底堅さを保っている。ただ、徐々に企業関係者の頭にも先行きの持続性への不安がもたげてきたようだ。
- なお、同日発表された1-3月期のドイツのGDP統計では新たに需要項目別の内訳が発表され、個人消費、政府消費、設備投資、住宅投資など内需部門が揃って拡大したことが確認された。暖冬による建設需要の押し上げだけに依存せず、幅広い需要項目が改善している点はポジティブ。

■ ドイツ：I f o 企業景況感



出所：I f o

■ ドイツ：I f o 業種別の先行き判断



出所：I f o

■ ドイツ I f o 企業景況感

	2013				2014							
	2Q	3Q	4Q	1Q	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
企業景況感(総合)	105.3	107.2	108.8	110.9	107.5	109.4	109.5	110.6	111.3	110.7	111.2	110.4
現状指数	108.8	111.1	111.7	114.0	111.3	112.3	111.6	112.5	114.4	115.2	115.3	114.8
先行き指数	101.8	103.4	106.0	107.8	103.9	106.6	107.4	108.9	108.2	106.3	107.3	106.2
業況判断	3.3	7.0	10.2	14.1	7.7	11.3	11.5	13.7	14.9	13.8	14.8	13.2
製造業	5.7	10.4	14.0	18.9	11.2	15.4	15.5	17.7	19.8	19.1	20.2	19.0
建設業	1.5	<b>-3.8</b>	<b>-2.5</b>	<b>-0.2</b>	<b>-5.9</b>	<b>-2.9</b>	1.3	2.4	0.6	<b>-3.5</b>	<b>-3.5</b>	<b>-4.0</b>
卸売業	<b>-1.5</b>	4.5	9.8	12.9	8.1	11.8	9.4	15.3	12.6	10.9	14.4	11.4
小売業	<b>-0.9</b>	4.1	4.6	7.1	3.6	5.3	4.8	4.3	8.4	8.5	7.7	4.9

出所：I f o

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。